

火打山&妙高山山行報告

【山行日】2025年 7月 26~27日(土日)

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 20,400円

【メンバー】CL:鈴木 SL飯野 飯口、田崎、根本、
26日 晴れ 笹ヶ峰登山口より高谷池ヒュッテ、
天狗の庭を經由し火打山登頂後高谷池ヒュッテま
で戻り、黒沢池ヒュッテまで行って宿泊。

岩舟支所P4:00=笹ヶ峰P6:00/7:1¥00~黒沢8:00~
富士見平 9:20/9:30~高谷池ヒュッテ 11:00/11:30~
火打山 13:10/13:30~高谷池ヒュッテ 14:30/14:45~
黒沢池ヒュッテ 15:40



当初の計画は燕岳から常念岳の登る予定だったが、燕山荘の予約が取れず急遽火打岳&妙高山に変更した。岩舟支所を4時に出発し、北関東道から上信越道を走り信濃町ICを出て笹ヶ峰に向かう。



笹ヶ峰登山口駐車場に着くとほぼ満車で、駐車場をぐるりと回って探し一番端の芝の駐車スペースに止めることが出来た。出発の準備を整え、ストレッチを行ったら出発する。道路を横切るとすぐに登山口があり、入山協力金500円を納めて登山道に入り、ブナ林の気持が良い木道を緩やかに登って行く。ブナの緑に癒されながらしばらく登ると黒沢に出て、橋を渡った先で休憩し衣服調整と水分補給を行う。ここから急坂を登るようになり、しばらく登ると「十二曲り」と呼ばれる九十九折れの急坂を登るようになる。曲がり毎に番号札が付けて有、番号を数えながらゆ

っくり登って行く。登り切った平らな場所で休憩し、ゼリーや菓子をいただき疲れた足を休める。この先からは稜線の樹林帯の中を、急登と緩やかな登りを繰り返しながら登って行く。オオシラビソの樹林帯を歩くようになると、黒沢池への分岐がある富士見平に着く。分岐を左に高谷池へ向かって進み、広く大きな岩交じりの稜線を登って行く。途中から黒沢岳の西側の斜面を巻くように進み、ダケカンバの樹林を抜けると下るようになり赤い三角屋根の高谷池ヒュッテが見えてくる。緩やかに下り草地を横切ると、ヒュッテの裏側からベンチやテーブルがある休憩所に着く。大休止して昼食をいただき、余分な荷物をザック置き場にデポして火打山に向かう。

飯口さんから足が疲れているので、明日の妙高山登山に備えて火打山は登らないと申し出があった。飯口さんと我輩は天狗の庭までで戻ることにして、全員で高谷池ヒュッテを出発する。高谷池の右を巻くように付けられた木道を進み、池の端からちよつとした岩場を越えると再び木道を歩くようになる。平坦な草地に付けられた木道の脇にピンクのハクサンコザクラが群生し、ベンチで休憩してハクサンコザクラの花を楽しむ。ここから木道の道を下ると天狗の庭と呼ばれる湿原に出て、湿原の向こうには火打山が聳え、今日一番のビューポイントである。絶景を楽しみながらナシをいただき、ここで火打山を目指す3名と分かれる。我々は来た道に戻り、草原のベンチでハクサンコザクラの花を楽しんだら高谷池ヒュッテに戻った。



日陰のベンチに腰かけて休んでいると、40代の夫婦と単独行の男性が日影を求めて集まって来て、山



の話で大いに盛り上がり楽しく過ごせた。14:30に3名が無事火打山から戻り、疲れた足を休めたら黒沢池ヒュッテに向かって出発する。高谷池ヒュッテから火打山に向かって少し行くと分岐があり、右に黒沢池ヒュッテに向かって登って行く。沢状の滑りやすい登山道を一登りすると茶臼山に出て、ここから崖の縁を歩くようになる。急に空模様が怪しくなり雷鳴がとどろき、少し急ぐように促すがピッチが上がらない。尾根上から右に急坂を下るようになり、やがて右側が開けて黒沢池湿原が見えるようになる。さらに下ると青い八角形の黒沢池ヒュッテが見え、皆さんから歓声が上

がり元気が戻ってくる。湿原の端から少し登ると黒沢池ヒュッテに着き、受付を済ませて本館の3階に泊ることになった。3階の布団をジャンケンで決め、着替えを済ませたら外のベンチで反省会が始まる。雷雨を心配したがいつの間にか雷鳴もおさまり、空も青空で陽射しが暑く感じられる。ビールで乾杯し火打山登頂の報告を聞いて、明日登る妙高山の話で盛り上がる。隣のテーブルに若者のグループが来て、ロング缶のビールを飲んでいたので、「ビールのロング缶は売っていましたか？」と聞くと「凍らせて担いできました」との返事。そこから明日の妙高山の話で盛り上がり、我輩もお酒に切り替えて少し飲み過ぎてしまった。



5時から夕食になり、1階の食堂に移動して夕食を美味しくいただいた。夕食が済んだら3階に上がり、明日の妙高山登山に備えて早めに床に就いた。

27日 晴れ 黒沢池ヒュッテから大倉乗越を越えて長助池分岐まで下り、分岐から妙高山南峰・北峰に登頂後燕温泉に下山し、タクシーで笹ヶ峰まで移動して岩舟支所に帰着する。

黒沢池ヒュッテ 5:25～大倉乗越 6:00～長助池分岐 7:00/7:10～妙高山南峰 8:10/8:25～北峰 8:30/8:40～天狗平 9:50/10:00～麻平分岐 11:00～燕温泉 12:15/12:20＝笹ヶ峰 P13:00/13:10＝苗名の湯 13:35/14:15＝道の駅「しなの」14:30/15:20＝岩舟支所 P19:00

朝4時に起きて外に出ると、今日も青空で天気は上々で雨の心配は無さそうである。出発の準備を整



えたら、4:25に1階の食堂に行く。朝食はヒュッテ名物のクレープが3枚とブルーベリージャム、スープとコーヒーと野菜スープである。最初は美味しくいただいたが、ブルーベリージャムだけでは飽きてしまい2枚で充分になる。朝食が済んだらトイレを済ませ、外の広場でストレッチを行い出発する。ヒュッテの前が十字路になっており、ヒュッテを出て左に登る道が妙高山へ向かう道である。樹林帯の急登が続き、沢を2つ程越えると大倉乗越に出る。ここは妙高山の外輪山の一角で、目の前にドーンと妙高山が聳えて見える。衣服調整をしたらジグザグに外輪山の内側を下り、途中からは細い道を巻くように下っ

て行く。ザレた細い道は歩きにくく、左側の急斜面は落ちたら下まで転げ落ちそうで怖い。皆さん慎重に下り、思ったより時間が掛かる。下り切ると雪渓を渡るようになり、雪渓の中ほどが崩れていて上部を巻くように渡る。雪渓を越えると間もなく長助池への分岐に出て、小休止して水分を補給する。

休んでいると昨日高谷池ヒュッテで会話した夫婦が来て、挨拶を交わして先に登って行く。我々も後を追



うように出発し、涸れ沢の中に付けられた道を登って行く。しばらく登ると沢から外れ、山腹の急登に変わりゆっくり登って高度を上げて行く。途中で大学の山岳部のグループに抜かれるが、上部に行くと休憩しており若いグループもきつい登りのようだ。我々も大きなダケカンバの木の下で休憩し、菓子を食べて疲れた足を休める。

最後の急な岩場を登ると尾根に出て、痩せた岩尾根を進むと一等三角点がある妙高山北峰に着く。山頂標識の前で記念写真を撮り、岩場に登ると北東側の山々が見えたが南東側の眺望は得られなかった。眺望を楽しんだら、もう一つの山頂

南峰へ向かう。南峰には岩の間を抜けるように南に進み、岩場を登ると妙高大神が祀られた南峰に出る。妙高大神の前で記念写真を撮り、少し先の岩場で休憩しおやつをいただく。晴れていれば北アルプスの眺望が得られるが、あいにく雲が多く展望は得られなかった。

おやつを食べたら下山開始し、南側の岩の急斜面に付けられた道を慎重に下って行く。先行する単独行の男性が慎重に下るので、我々も男性に合わせてゆっくりしたペースで下ることが出来た。やがてクサリ場を下るようになると、我々のペースが遅くなり男性は見えなくなってしまう。その先には絶壁の岩場をクサリに掴まってへ攀るようになり、最後は岩を削って付けられた急な階段を下って行く。本日最大の難所を下り終え、皆さん安堵した様子。岩場は終わったが急傾斜の下りは続き、冷たい風が吹き出す「風穴」を過ぎて光善寺池と言う小さな池に出る。さらに下ると天狗平に出て、ここからは池ノ平らに下る分岐が有り我々は左に燕温泉に向かって下る。樹林帯の急降下を下って



行くと、硫黄の匂いがする北地獄谷の河原に出る。岩がゴロゴロした沢の中を下って行き、沢を渡って麻平への道を左に分け沢沿いに進む。

すぐ先で沢を渡って右岸を下るようになり、やがて急坂を大きくジグザグに下ると石畳の道に出る。温泉の引湯パイプに沿った道で、舗装されて歩き易くピッチも早くなる。途中の温泉管理小屋の前で休憩し、菓子を食べて水分を補給する。さらに水平道を緩やかに下り、右に沢から離れて進むと広い舗装道路に出る。舗装道路をしばらく下ると露天風呂の「黄金の湯」の脇を通り、燕温泉のお温泉街に出る。花文旅館の前に予約したワ

ゴンタクシーが待っていて、ザックを積んだらタクシーに乗って笹ヶ峰に向かう。

笹ヶ峰の駐車場に着いたらザックを車に積み替え、2日間の汗を流すため「苗名の湯」へ向かう。

ゆっくり温泉に浸かって汗を流し、サッパリしたら道の駅「しなの」に移動し遅い昼食を摂る。道の駅の中にあるお蕎麦屋で天ぷら蕎麦をいただき、買い物済ませたら帰路に着く。信濃町ICから上信越道に入り、佐久IC手前から渋滞があり予定より30分遅れて岩舟支所に帰着した。